

都市再生整備計画（第5回変更）

とみすはらえきしゅうへんちく
富洲原駅周辺地区

みえけん かわごえちよう
三重県 川越町

平成22年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	三重県	市町村名	川越町	地区名	富洲原駅周辺地区	面積	211.6 ha
計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度				

目標

大目標： 地域社会のユニバーサルデザインを図り、「うるおい であい ふれあい」のまちづくりを目指す。

目標1： 「交通結節点機能の向上」による快適な都市環境の創造を図る。

目標2： 「交流拠点機能の充実」による人が集い文化を培う空間を形成する。

目標3： 「安心・安全に楽しく歩ける地区の形成」による安心して都市活動を営める環境づくりとアクセス性の向上を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

川越町は、全域871haが都市計画区域に指定され、市街化区域が640.1ha、市街化調整区域が230.9haとなっている。

現状の土地利用は、町東部・臨海部の工業系用途、西部及び桑名市の境側の住居系用途が広がり、本地区は住居系・商業系の用途が展開している。

また「川越町都市マスタープラン」では、本地区(町西部)の「生活拠点ゾーン」、役場周辺(町中央部)の「シビックゾーン」及び第二名神 川越1.Cエリア(町東部)の「多目的交流ゾーン」の3ゾーンが重点整備地区として位置づけられている。

- ・本地区は、川越町の西部の市街化区域内に位置し、名古屋、大阪及び伊勢方面にアクセスする富洲原駅を有し、国道1号線や都市計画道路(富洲原駅天ヶ須貫線)と結節しており、町内唯一の公共交通結節点である。
- ・近年では、国道1号線等のロードサイド店の進出により富洲原駅近隣の商業は衰退傾向にあるが、本地区周辺では住宅及び病院等の立地が進んでいる。
- ・また富洲原駅の利用者は児童、生徒が多く、現在は踏切を横断する必要があり、安心・安全性の水準が低い。
- ・さらに同駅の東側のみにある駅前広場(近鉄所有地)も歩道が整備されていないなど、交通結節点としては十分な機能を有していない。

以上の内容より、富洲原駅周辺地区は、「生活拠点ゾーン」として「まちの顔となる交通利便性が高く、日常の都市生活に必要な機能の導入」が必要である。具体的には、「拠点施設間のアクセス性向上とともに、富洲原駅での自由通路、橋上駅化、駅両側での駅前広場、広場空間及び駐輪場の整備」を図りこれを実現する。

このため川越町はH17年度、都市・地域整備局の補助金交付をうけ、富洲原駅周辺地区についての検討委員会を設立し、このH17年度内に計画策定を予定している。

課題

現在の富洲原駅周辺地区は、住宅・病院等の生活系機能の立地が進んでいるが、当該駅や周辺施設は町民以外による利用者も多く、安心・安全かつ快適に移動、交流ができるまちづくりが必要である。また、富洲原駅は通勤・通学者主体の単なる移動の通過点で、地域社会との連携が希薄であることから、同地区における移動アクセス性及び交通結節点機能を充実したうえで、人の往来を活かした交流拠点機能の導入が必要である。このような状況において、鉄道による地区の分断及び道路内踏切における交通の交錯が多いなど、基本的な地区の一体性及び安全性の水準が低い。

- ・移動アクセス性及び交通結節点機能の不足： 町唯一の鉄道駅であるが誘導案内が十分ではない。また鉄道による地区の分断と駅前広場での歩行者と車のスペースが区分されておらず、駐輪場も不足しており、交通結節点機能が十分ではない。
- ・地域コミュニティの不足： 町唯一の鉄道駅として近隣市及び川越町民の通勤・通学者が多いが、この集積を活かしたコミュニティを図る場所が不足している。
- ・安心、安全性の水準が低い： 安全性向上のため駅利用者等の踏切横断を極力、解消する必要がある。また、安心・安全性向上のため、積極的に警察関係の機能を導入する必要がある。

将来ビジョン(中長期)

第5次川越町総合計画(2001~2010年)では、将来像として「うるおい であい ふれあいのまち」という基本理念のもと「快適感・安心感・楽しさ感・活力感・ふるさと感」を向上させることを基本方針としている。また、土地利用の方向性として既成中心市街地機能の充実を施策のひとつに掲げ、そのなかで富洲原駅の機能充実が位置づけられている。

また、川越町都市マスタープランでは、まちづくりのコンセプトを『人が集い文化を培う みどり豊かで快適な都市環境を創造するまち』とし、このなかで将来像を「都市基盤・都市施設が利便性の高い快適な都市空間を根幹とし、住民にとって精神的・肉体的に向上させ得る健全で文化的な都市環境を創造し、活発で良好な産業環境を有する交流都市」としている。 また、本地区は、「生活拠点ゾーン」として、町の表玄関としての整備を図ることが位置づけられており、具体的には「駅東西両側での駅前広場整備の検討、駐輪場や長期的視点でのパーク&ライド駐車場整備の検討」等を掲げ、良質な都市型住居地域の形成や商店街の活性化策を検討する地区として位置づけられている。

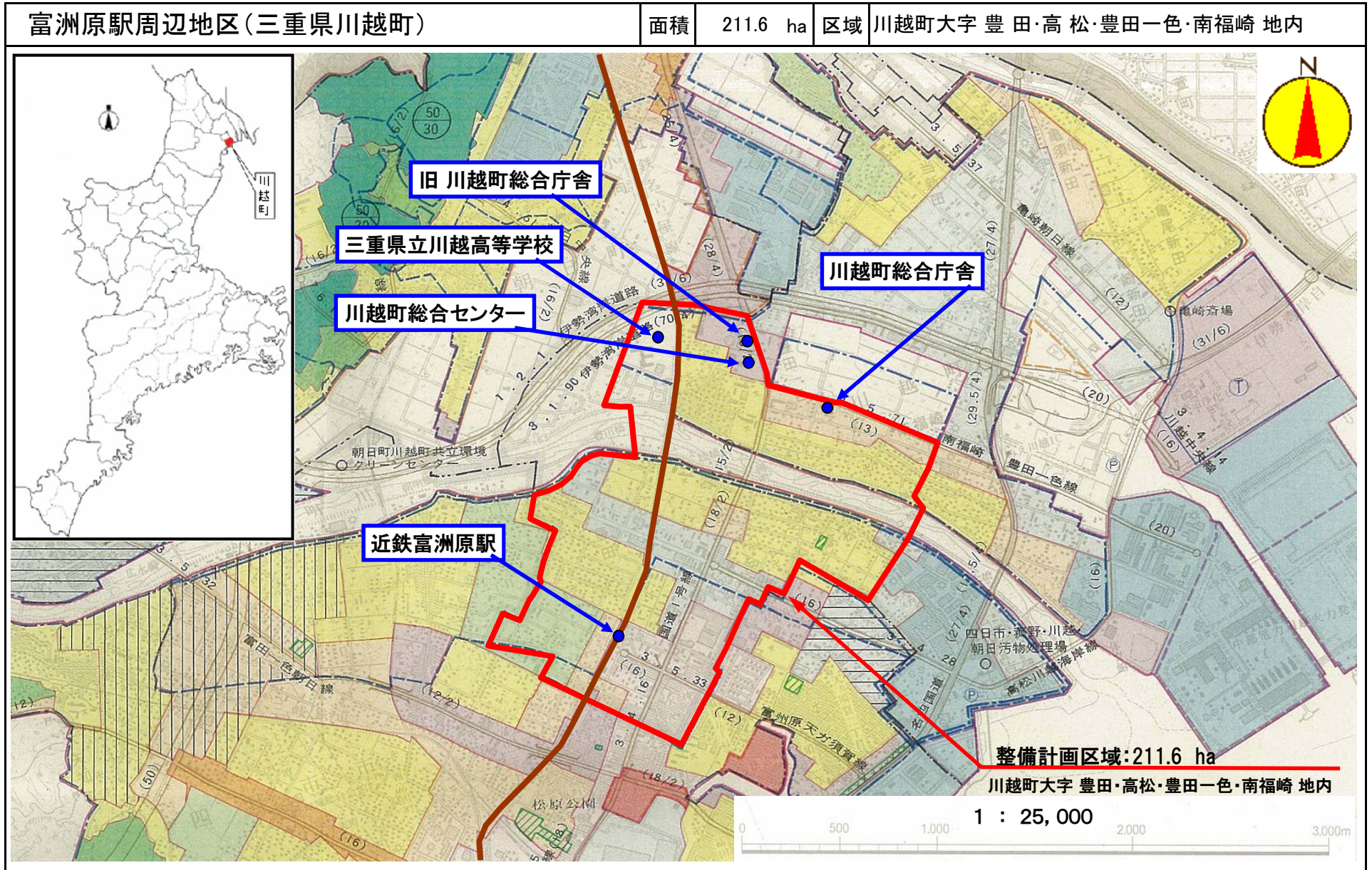
目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値
				基準年度	目標年度
踏切横断交通量	人/12時間	町道 踏切部における歩行者及び自転車交通量(平日)	自由通路、橋上駅及び駅前広場の交通結節点整備による踏切交通量の減少により「駅利用者の安全性確保」を図る。	1,860	800
放置駐輪台数	台	富洲原駅周辺の放置駐輪台数(平日午前9時)	駅両側の駐輪場整備により放置駐輪をなくすことにより、「玄関口としての顔づくり」と「安全性確保」を図る。	約70台	0台
イベント等の参加人数	人/年	広場等の公共空間におけるイベント参加人数	広場の整備及びアクセス性の向上によりイベント等の参加人数が増加し、利用者及び町民の交流機会の増加による「交流拠点機能の充実」を図る。	約100人/年	150人/年

都市再生整備計画の整備方針等

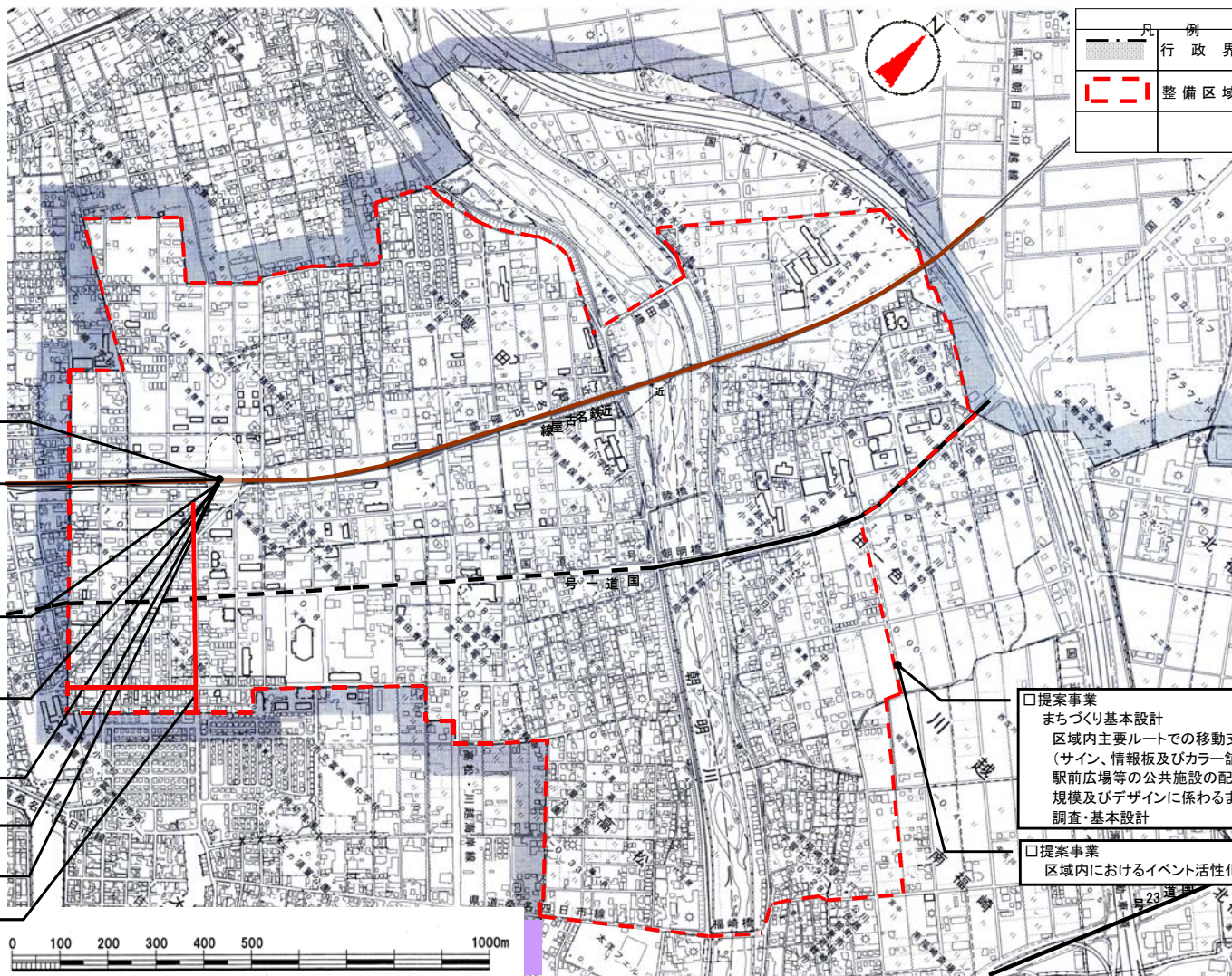
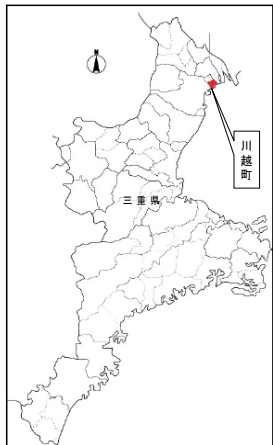
計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1 「交通結節点機能の向上」 ○駅東側の駅前広場、駐輪場の再整備とともに、駅西側にも新規に駅前広場、駐輪場を整備する。 ○合わせて自由通路及び橋上駅を整備し、踏切での交通の交錯を解消し、安全で利便性の高い交通結節点機能の向上を図る。</p> <p>・駅名の改称：現在の駅名「富洲原駅」は四日市市にある地区名称であり、町民からも身近な駅名への改称要望が出ている。</p>	<p>①【基幹事業】道路（東口駅前広場、西口駅前広場） ②-1【基幹事業】地域生活基盤施設（駐輪場（東口）、駐輪場（西口）） ③【基幹事業】都市再生交通拠点整備事業（自由通路）</p> <p>a)【提案事業】地域創造支援事業（駅舎改築（橋上駅）） b)【提案事業】地域創造支援事業（駅名改称）</p>
<p>整備方針2 「交流拠点機能の充実」 ○交通結節点機能だけでなく、交流拠点機能を担う広場空間を設ける。</p> <p>・当該区域におけるイベント開催等の推進を図るための調査を実施する。</p>	<p>②-2【基幹事業】地域生活基盤施設（広場（東口）、広場（西口））</p> <p>c)【提案事業】まちづくり活動推進事業（区域内におけるイベント活性化策の検討）</p>
<p>整備方針3 「安心・安全に楽しく歩ける地区の形成」 ○安心安全な駅空間を実現するため、駅前広場または広場における防災施設（防火水槽等）を設置する。</p> <p>・富洲原駅の徒歩圏を中心とした主要ルートにおいて、アクセス性の向上を図るため、当該交通結節点を含めた移動支援施設（サイン、情報板及びカラー舗装）、駅・駅前広場等の公共施設の配置、施設規模及びデザインに係わるまちづくりの調査・基本設計を実施する。 ・地区の住民及び駅利用者の移動等における安心感・安全性の向上を図る。 また、当地区の安心・安全性を維持・向上するため、交番を西口駅前広場隣接地の広場（西口）に設置する。（関連事業）</p>	<p>②-3【基幹事業】地域生活基盤施設（耐震性防火水槽（東口）、耐震性防火水槽（西口））</p> <p>d)【提案事業】地域創造支援事業（まちづくり基本設計）</p>
<p>その他</p> <p>○当該事業計画の策定を図るための方策 平成17年度内の計画策定を図るため、「川越町富洲原駅地区整備計画検討委員会」にて協議を実施。 なお、平成17年11月末、同検討委員会より町長へ答申。 また、平成17年10月、当該事業計画案について町民及び駅利用者等へのパブリックコメントを実施。</p> <p>○平成18年11月の変更内容・変更理由及び協議状況 ①富洲原駅西口にある都市下水路（四日市市の財産・管理）の暗渠化とその上部空間の活用（駐輪場、歩行者空間、修景空間） ②同西口側 線路沿いの修景空間及び歩行者通路の設置（以下、「線路沿いプロムナード」と呼ぶ）。</p> <p>以上は、本整備計画を発表後にも多くの町民から建設的な意見・要望があり、児童・生徒を含めた利用者に対して上記の整備方針1～3の目標をさらに充実したものにするため、必要最小限の範囲で都市下水路の暗渠化を行い、また、線路沿いプロムナードの整備について変更としたい。</p> <p>なお、都市下水路は四日市市との協議で、暗渠化・上部空間利用について基本的整備について合意している。 また、線路沿いプロムナードの範囲は、近鉄所有地であるが、町による借地及び施設整備について近鉄より整備の了解をいただいている。</p>	

都市再生整備計画の区域



とみすはらえきしゅうへん ちく み えけんかわごえちよう
富洲原駅周辺地区(三重県川越町) 整備方針概要図

目標	地域社会のユニバーサルデザインを図り、「うるおい であい ふれあい」のまちづくりを目指す。	代表的な指標	踏切横断交通量 (人/12時間)	1,860 (H17年度) → 800 (H22年度)
			放置駐輪台数 (台)	約70台 (H17年度) → 0台 (H22年度)
			イベント等の参加人数 (回/年)	約100人/年 (H17年度) → 約150人/年 (H22年度)



- 基幹事業
道路
- 基幹事業
地域生活基盤施設
駐輪場(東口)、駐輪場(西口)
広場(東口)、広場(西口)
耐震性防火水槽(東口)、耐震性防火水槽(西口)
- 基幹事業
都市再生交通拠点整備事業
自由通路
- 基幹事業
高質空間形成施設
線路沿いプロムナード
- 提案事業
駅舎改築(橋上駅)
- 提案事業
駅名改称
- 関連事業
- 基幹事業
高質空間形成施設
町道富洲原天カ須賀線・天神高

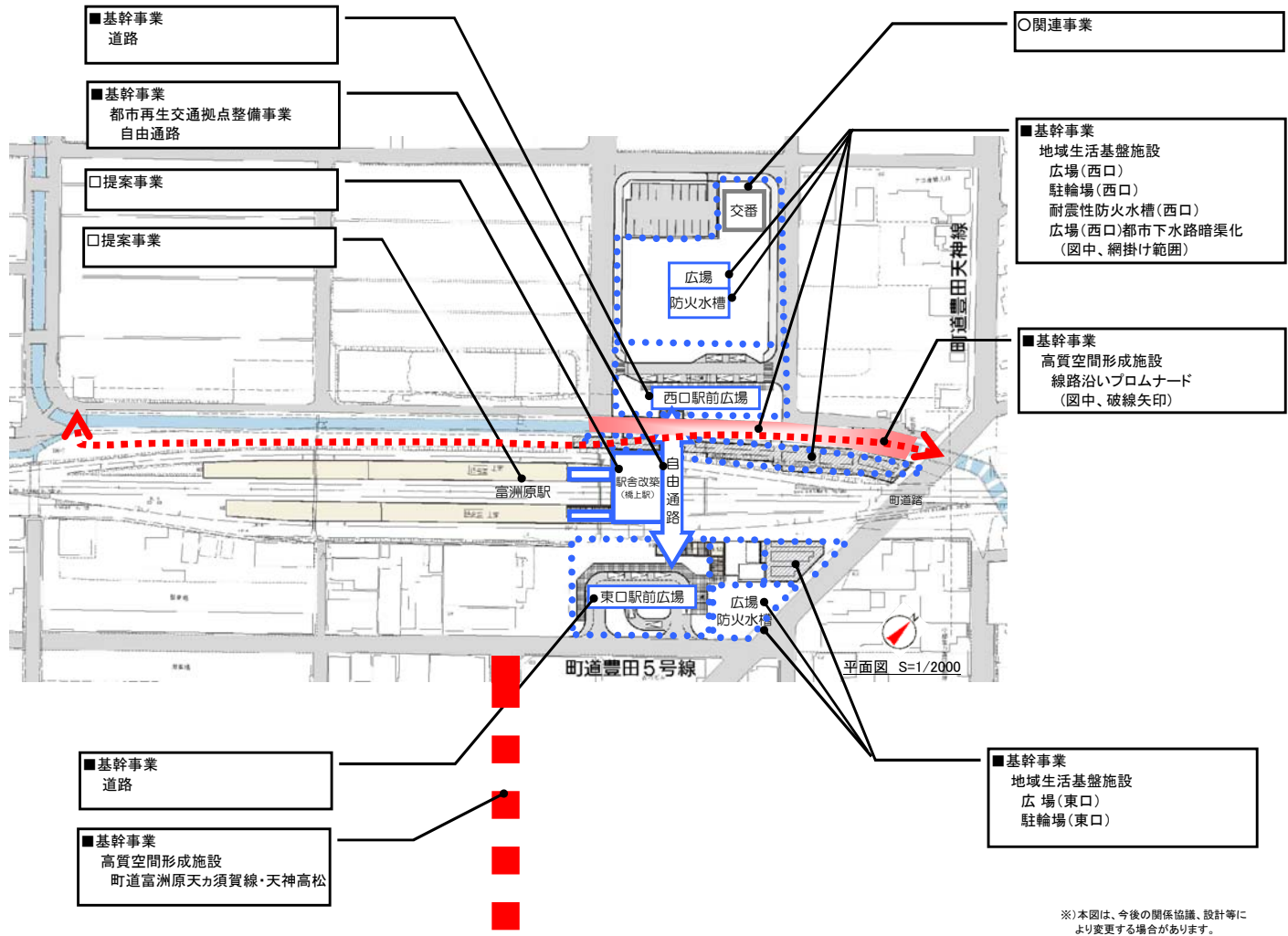
凡 例	
	行政界
	整備区域

- 提案事業
まちづくり基本設計
区域内主要ルートでの移動支援施設
(サイン、情報板及びカラー舗装)、駅・
駅前広場等の公共施設の配置、施設
規模及びデザインに係わるまちづくりの
調査・基本設計
- 提案事業
区域内におけるイベント活性化策の検討

(詳細、次ページ参照)

とみずはらえきしゅうへん ちく み えけんかわごえちよう
富洲原駅周辺地区(三重県川越町) 整備方針概要図

目標	地域社会のユニバーサルデザインを図り、「うるおい であい ふれあい」のまちづくりを目指す。	代表的な指標	踏切横断交通量 (人/12時間)	1,860 (H17年度) →	800 (H22年度)
			放置駐輪台数 (台)	約70台 (H17年度) →	0台 (H22年度)
			イベント等の参加人数 (回/年)	約100人/年 (H17年度) →	約150人/年 (H22年度)



※)本図は、今後の関係協議、設計等により変更する場合があります。